

教育課程

看護学研究科では、看護学の専門的探求を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する人材を育成するために、7つの看護学専門領域で構成しています。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		履修要件
			必修	選択	
共通科目	看護学研究方法特論Ⅰ	1前	2		10単位以上（必修6単位含む）
	看護学研究方法特論Ⅱ	1後	2		
	看護教育特論	1前	2		
	看護理論特論	1前		2	
	家族支援特論	1後		2	
	保健医療福祉システム特論	1前		2	
	地域協働特論	1後		2	
	国際フォレンジック看護学特論	1後		2	
専門科目	看護方法学領域	看護方法学特論	1前	2	12単位以上（選択する看護学領域の8単位を含む）
		看護方法学実践論	1後	2	
		看護方法学特論演習	1通	4	
	成人看護学領域	成人看護学特論	1前	2	
		成人看護学実践論	1後	2	
		成人看護学特論演習	1通	4	
	精神看護学領域	精神看護学特論	1前	2	
		精神看護学実践論	1後	2	
		精神看護学特論演習	1通	4	
	地域看護学領域	地域看護学特論	1前	2	
		地域看護学実践論	1後	2	
		地域看護学特論演習	1通	4	
	老年看護学領域	老年看護学特論	1前	2	
		老年看護学実践論	1後	2	
		老年看護学特論演習	1通	4	
	ウイメンズヘルス看護学領域	ウイメンズヘルス看護学特論	1前	2	
		ウイメンズヘルス看護学実践論	1後	2	
		ウイメンズヘルス看護学特論演習	1通	4	
	小児看護学領域	小児看護学特論	1前	2	
		小児看護学実践論	1後	2	
		小児看護学特論演習	1通	4	
研究科目	特別研究	1通～2通	8		8単位
修了要件		30単位以上			

教育課程の編成方針

本研究科では、共通科目、専門科目、研究科目の3つの科目群で教育課程を編成しています。

- ①共通科目では、看護学の体系化に資する研究のあり方や方法を学ぶ科目や既出の看護理論や看護教育などの研究を進める上での理論的基盤となる科目を配置する。
- ②それぞれの看護専門領域の独自性に立脚した探求に加え、関連領域との連携協働の視点をも併せ持つ研究へと発展させていくための基礎的な知識を修得する科目を配置する。
- ③専門科目では、7領域の看護学の研究を支える科目として、それぞれに、特論／実践論／特論演習の各科目を配置する。
- ④研究科目では、研究目的の明確化から研究デザインの決定・計画とその検証作業の実施、論文執筆までの一連の過程を通じて、研究力のみならず、その成果を広い視野をもって、種々、適用する力を培うことをめざす科目として配置する。

科目紹介

保健医療福祉システム特論

本講義のテーマは、厚生行政の機能と政策の仕組みについて学ぶことです。①ポリシー、②ニーズ、③社会資源、④厚生行政、⑤保健医療福祉制度をキーワードに、世界及び日本で展開されている保健・医療・福祉政策の基本的考え方と、政策決定過程とその影響要因を知るとともに、実際の医療などに関する今日的課題や将来予測まで幅広く学びます。保健医療福祉政策をめぐるさまざまな課題は看護にも関連しています。政策過程における科学的根拠の重要性、政策分析から新たな政策提案、また保健医療福祉政策を通じて看護についての課題解決方を理論的に提案できる力を培います。

看護方法学実践論

専門職としての看護職が実践する日常生活援助と指導技術に焦点をおき、それらケア技術の実証研究と開発研究を題材に分析検討を重ね、ケア技術の知識と理解を深めるとともに、ケア技術開発への基盤力を培います。具体的には、さまざまな看護展開場面を題材として、看護方法学特論で学習した諸理論を用いて深く分析し、実践のあり方・技術の捉え方・看護管理の進め方などを立体的複合的に検討して看護活動そのものの在り方と今後の展望を考察します。とすれば、狭義の技法と捉えやすい看護「方法」を広義に捉え、看護活動の本質に迫ることにより、自身の看護論・実践論を明確にできる力を培います。

成人看護学特論

成人看護学特論では、健康問題を抱えた成人期にある人々とその家族を対象に、発達課題及び生活者としての社会的状況をふまえ、療養上の課題について理解を深めます。さらに看護活動の基盤となる概念と理論の歴史的背景や理論構造を探求し、看護実践能力の向上に確実に活かす力を培います。急性期・慢性期にある成人の健康問題の特徴、セルフケア理論、病みの軌跡理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディイメージ、悲哀・悲嘆についての研究成果をふまえながら、看護実践への具体的な適用について検討します。